



広報

ななほ

市民の友

第625号 毎月1回発行
2003年(平成15年)

2月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 ●印刷(協)丸正印刷

市の人口と世帯	
* ()内はうち外国人 2002(平成14)年12月末現在	
総人口	308,143(1,844)
男	149,011(938)
女	159,132(906)
世帯数	120,058(1,071)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	86,745
真和志	105,983
首 里	58,605
小 禄	54,966



サンニンの香りにあつあつの夢のせて

みんなでわいわい、
ムーチーづくり

旧暦の12月8日(1月10日)はムーチー(鬼餅)。神仙にも供えて厄を払い、子どもがいる家ではその年の数だけひもで結んで天井からつるし、健やかな成長を願う。

ここ、与儀保育所でも子どもたちがエプロンに三角巾を身にまとい、ムーチーづくりに挑戦した。でいご、さくら、ゆうな、チヨリップ、たんぽぽ、すみのれ各組で保育士の説明を受けながら小さな手でこねたもちをベッタンベッタンと平たくしてサンニンカーサ(月桃の葉)にのせて包み、ひもでくる。

園庭ではおおきなクワディーサーの木の下でシンメナービ(丸底の大鍋)がマキに焚かれて子どもたちを待っている。

次は「ゆうな組さんの番ですよ」と順番にムーチーを入れていく。蒸し上がる間、ムーチーの由来話の紙芝居に見入る子どもたち。

ナービのまわりからは「ムーチーの歌も聞こえてきた。」

「ムーチー、ムーチーおにムーチー。12月8日(シーフスユカ)のムーチービーサー。みんなで囲んだシンメナービ。またかな、またかな、できたかな。サンニンの香り、むねいっぱい広がるよ。」

ナービのふたが開いた。よく見るとムーチーひとつひとつに手書きの名前がくつきり。

サンニンカーサに包まれた、それぞれのあつあつの夢や思いがふくらみ、白い煙にのってふわり、新春の空へきざまれた。

主な紙面

- (2面) 最終処分場の使用を延長
- (3面) 8会場で成人式を自主開催
- (4面・5面) 第25回「那覇の物産展」6商品に那覇市長賞
- (6面) ザ・自治会
- (7面) 情報PACK

支店の視点⑪

えがしらむつお
江頭睦雄

(全日空沖縄支店長)

1947年生まれ。
長崎県佐世保市出身。
全日空入社後、整備本部、東京支店、福岡空港支店、人事部、ニューヨーク支店、大阪支店、福岡支店を経て2002年7月沖縄支店に着任。現在財団法人沖縄コンベンションビューローの理事として、沖縄観光促進に取り組み中。

私が最初に那覇市を訪れたのは、沖縄が本土に復帰した、1972年の9月でした。飛行機から見た海の素晴らしさは、今でも鮮明に記憶しています。当時の空港のみすぼらしさ(失礼!)も、あれから昨年7月に着任するまでの30年間に数10回となく沖縄を訪れていますが、実際に住んで感じたことをいくつか挙げてみたいと思います。

まずは台風の物凄さ。昨年青任早々、大型台風が沖縄を何回か直撃しましたが、その威力の凄さを肌身で感じました。次に空港が素晴らしくきれいになった事。飛行機を降りると廊下の両側に沖縄のきれいな花が一年中置いてあり、観光客の気持ちを和ませてくれます。それから、市内の道路がいつも清掃されている事。特に国際通りを中心として感じます。市民のみなさんが自分の街をきれいにしようという気持ちが伝わってきます。そして、古い街が残っている事。牧志の公設市場、開南、壺屋周辺の雑

然とした町並みは、以前と変わらない活気があり、魅力的です。街が近代化され、新しくなっていくことも必要ですが、古き良き物はぜひ残して欲しいですね。あと、国際通りの歩道に「アーケード」がない事。夏の強い日差しと台風が多いにもかかわらず、メインストリートに「アーケード」がない事は不思議です。世界的な史跡、伝統工芸、多様な食文化、伝統芸能などの豊富な観光資源があり、年間480万人を超える観光客が訪れる街ですが、これからは、「行ってみたい街」だけではなく「住んでみたい街」になることを提案します。あたたかい気候と人柄をメインに県外の定年退職者など高齢の方が移り住みたくなるように、住居や病院、娯楽施設など、受け入れ環境を整備してはどうでしょう。地元の雇用促進にもつながります。さらに移り住む方の市税を安くするなどの特典もあれば……

那覇市が先頭に立って色々な分野でリードされる事を期待します。



那覇には昔ながらの赤瓦、ハーリーなどいいものがいっぱい。(後方には那覇ハーリー戦域の部優勝トロフィー)

6面に住民票コード通知書についてのお知らせがあります。(市民課)